

令和2年度 第2回横浜市創造界限形成推進委員会

次 第

日時：令和2年10月21日（水）

14時00分～16時00分

実施方法：WEB会議形式

（事務局）横浜市役所18階共用会議室さくら14

【議題】

1 報告事項

- (1) 今後の創造都市施策の方向性の検討「これからのクリエイティブシティ・ヨコハマを考える」について
- (2) 今後の創造界限拠点の動きについて

2 その他

【資料】

- ① 次第
- ② [資料1] 委員名簿
- ③ [資料2] 前回議事録（令和2年7月31日開催分）
- ④ [資料3] 「これからのクリエイティブシティ・ヨコハマを考える」について
- ⑤ [資料4] 今後の創造界限拠点の動きについて
- ⑥ [資料5] Creative Railway実施報告について

横浜市創造界限形成推進委員会委員名簿(9名)

氏名	所属団体(役職名)		分野	出欠
◎野原 卓	横浜国立大学大学院	准教授	都市計画	○
○六川 勝仁	馬車道商店街協同組合	理事長	経営と地元	○
遠藤 新	工学院大学建築学部	教授	都市計画	欠席
岡本 純子	公益財団法人セゾン文化財団	プログラム・オフィサー	舞台芸術	○
菅野 幸子	アーツ・プランナー/リサーチャー		アート/国際交流	○
重松 久恵	ブランド・マネジメント・コンサルタント		創造産業	○
日沼 禎子	女子美術大学 芸術学部	教授	アートマネジメント	欠席
簗谷 則美	(株)ミノヤアソシエイツ	代表取締役	まちづくり	○
山口 真樹子	ゲーテ・インスティテウト東京	コミュニケーション・広報	国際交流/舞台芸術	○

◎…委員長

○…副委員長

横浜市創造界隈形成推進委員会 分科会委員名簿

旧第一銀行横浜支店事業評価及び運営団体選考分科会

◎ 六川 勝仁	馬車道商店街協同組合	理事長	経営と地元
簗谷 則美	(株)ミノヤアソシエイツ	代表取締役	まちづくり
★恵良 隆二	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団	専務理事	まちづくりと経営

旧関東財務局横浜財務事務所事業評価及び運営団体選考分科会

◎ 野原 卓	横浜国立大学大学院	准教授	都市計画
重松 久恵	ブランド・マネジメント・コンサルタント		創造産業
★田辺 恵一郎	プラットフォームサービス(株)	取締役会長	まちづくり 施設運営・経営

旧老松会館事業評価及び運営団体選考分科会

◎ 山口 真樹子	ゲーテ・インスティテュート東京	コミュニケーション・広報	国際交流/舞台芸術
岡本 純子	公益財団法人セゾン文化財団	プログラム・オフィサー	舞台芸術
★恵志 美奈子	世田谷パブリックシアター 劇場部		公立文化施設

象の鼻テラス事業評価分科会

◎ 菅野 幸子	アーツ・プランナー/リサーチャー		アート/国際交流
遠藤 新	工学院大学建築学部	教授	都市計画
日沼 禎子	女子美術大学 芸術学部	教授	アートマネジメント

初黄・日ノ出町文化芸術振興拠点事業評価分科会

◎ 日沼 禎子	女子美術大学 芸術学部	教授	アートマネジメント
遠藤 新	工学院大学建築学部	教授	都市計画
★田辺 恵一郎	プラットフォームサービス(株)	取締役会長	まちづくり 施設運営・経営

文化芸術創造発信拠点事業評価及び運営団体選考分科会

◎ 簗谷 則美	(株)ミノヤアソシエイツ	代表取締役	まちづくり
菅野 幸子	アーツ・プランナー/リサーチャー		アート/国際交流
★恵良 隆二	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団	専務理事	まちづくりと経営
★近澤 弘明	(株)近澤レース店	代表取締役	経営と地元

◎…議長

★事業評価及び運営団体選考分科会に参加する委員以外の有識者

令和 2 年度第 1 回横浜市創造界限形成推進委員会 議事録	
日 時	令和 2 年 7 月 31 日（金）10 時 00 分～12 時 00 分
開催場所	WEB 会議形式（事務局設置：横浜市役所 18 階共用会議室 さくら 14）
出席者	野原委員長、六川副委員長、岡本委員、菅野委員、重松委員、日沼委員、簗谷委員、山口委員、恵良氏（オブザーバー）
欠席者	遠藤委員
開催形態	一部非公開
議 題	<p>1 審議事項</p> <p>（1）令和 2 年度事業計画について</p> <p>（2）令和元年度事業評価について</p> <p>（3）文化芸術創造発信拠点（BankART1929）の活用施設の変更について</p> <p>2 報告事項</p> <p>今後の創造都市施策の方向性の検討「これからのクリエイティブシティ・ヨコハマを考える」について</p> <p>3 その他</p>
決定事項	<p>【開会】</p> <p>事務局 ○令和 2 年度第 1 回横浜市創造界限形成推進委員会を開始する。</p> <p>【挨拶】</p> <p>事務局 ○文化観光局長から挨拶が行われた。</p> <p>【事務局紹介】</p> <p>事務局 ○事務局の人事異動について紹介された。</p> <p>【資料確認】</p> <p>事務局 ○配付資料の確認が行われた。</p> <p>【定足数の確認】</p> <p>事務局 ○委員 9 名中 8 名が出席しており、委員会の成立となる。</p> <p>【会議の公開・非公開】</p> <p>事務局 ○本会議は横浜市の保有する情報の公開に関する条例第 31 条により原則公開となるが、審議事項（3）「文化芸術創造発信拠点の活用施設の変更について」は、同条例第 7 条第 2 項第 5 号に当たるため非公開とするが、よろしいか。</p> <p style="text-align: center;">（了承）</p> <p>事務局 ○それではここで、議事に入る前に事務局から 2 点ほど情報提供させていただきます。</p>

	<p>情報提供 1：文化芸術活動への支援対策について <文化芸術活動への支援対策について、事務局より説明が行われた。></p> <p>情報提供 2：ヨコハマトリエンナーレ 2020 について <ヨコハマトリエンナーレ 2020 について、事務局より説明が行われた。></p> <p>審議事項（1）：令和 2 年度事業計画について <令和 2 年度事業計画について、事務局より説明が行われ、議題について審議が行われた。></p>
野原委員長	○新型コロナウイルスの影響、令和 2 年度の各拠点の事業計画、拠点連携事業 Creative Railway に関して説明いただいた。ここまでの説明について、質問やご意見はあるか。
恵良氏	○元年度評価とセットになるが、前年度に出た課題にどうチャレンジするかの視点があまりなかった。拠点それぞれに課題があるはず。例えば、象の鼻テラスであれば、港湾施設でもあるため港湾局と一緒に何かやるとか、昨今注目が高まっている公共空間活用をもう少しやるとか、チャレンジに関する話が聞ければ良かった。
事務局	○例えば、THE BAYS であれば産業系をどうしていくか、象の鼻テラスであれば港湾局と利活用などについてスムーズに連携できないか、など個別課題についてはそれぞれの分科会で意見をいただき、解決策を前進させていこうという話になった。
野原委員長	○事業計画シートは事業評価と事業計画の配置を工夫し、俯瞰して見られるような形にできると良い。事業評価の構造的問題でもあるが、先に次年度の事業計画を立てるので、その年度の事業評価をしても、それが事業計画に反映されないというのがある。少なくとも前年度の課題への対応状況をチェックできると良いと思う。マイナーチェンジでも良いと思うので工夫していただきたい。
事務局	○ご指摘の点は事務局でも課題と感じており、少しずつ改良しているが、網羅的に見せられるよう工夫していきたいと思う。
野原委員長	○新型コロナウイルスの対応にて補正予算の話があったが、創造界限拠点に関しては情報交換も含めて、具体的にどのような対応をされたか聞かせて欲しい。
事務局	○急な坂スタジオでは、昨年度分について新型コロナウイルスで影響を受けた分の財政的な補填を行っている。日々の運営については、消毒や入場者制限など工夫しながら実施している。今後も影響は続いていくため、運営に支障がないよう市としても支援していく。
野原委員長	○換気設備などハード面を拠点で対応するのは難しいこともあるので、拠点個々の状況に寄り添いながら、情報交換を密にして支援をお願いできればと思う。

恵良氏	○拠点にとっては医療の専門家のサポートや相談がとても大切で、そういった取組が始まっているところもあるので、参考にしてほしい。また、拠点の努力で国際交流といった国際的な要素が高まってきているが、新型コロナウイルスや世界の政治動向の影響など、今後拠点が国際交流を行う場合には、世界情勢の影響は欠かせない視点となる。
事務局	○施設の改修等については、文化庁などの助成もあるため、拠点とは密に連携を取っていきたい。また、稽古場などは実際に運用していく上での課題があると思うので、ACY や医療関係者からもアドバイスをもらいながら進めていきたい。国際交流については、国際局が友好都市等で実施しているものや、BankART や黄金町で独自に開いているネットワークもある。こうした情報を共有しながら、現場での交流がうまくいくようにサポートしたいと思う。
野原委員長	○では、質問、意見がなければ、審議事項（１）については了承でよろしいか。 (了承)
	<p>審議事項（２）：令和元年度事業評価について</p> <p><令和元年度事業評価について、事務局より説明が行われ、議題について審議が行われた。></p>
野原委員長	○各分科会の議長から令和元年度事業評価と令和２年度事業計画について補足説明を頂戴したい。
簗谷委員	○文化芸術創造発信拠点については、分散型拠点に移行しての初年度という中で、後半は新型コロナウイルスの影響もあったが、非常によくやったと思う。新拠点に移行し、改めてネットワークを構築していかなければいけないという大きな課題があったが、その中でも収支バランスを含め、非常によくやっている。特に BankART Station では、みなとみらいの企業と連携が生まれ、そういう動きが創造都市の取組全体につながれば良いという意見が出た。一方で、運営団体からは、関内などには千人を超えるクリエイターが集積しており、例えば古いビルに格安の賃料でアーティストに入居してもらうサポートなどを行うことで、古いビルの延命にもつながっているという話があった。これまでのアートの振興だけではなく、新旧の市街地を巻き込んだまちづくりがうまくできていると感じる。市としてクリエイターが集まっていることを情報発信できると良い。一方、集まってきたクリエイターが出ていかない仕組みづくりが課題だと思う。運営団体からは横浜でアーティストの仕事がつかれるのか、横浜から世界に発信できるのかが問われているとの意見があり、市としても創造界隈の取組を一体的に支援できたら良いと思う。新型コロナウイルスを契機に、次年度以降は以前の状態に戻すという発想だけではなく、デジタルを含めたような新しい展開ができれば良い。

山口委員	<p>○急な坂スタジオについては、限られた人員、予算と体制の中で非常によくやっている。特に、若手アーティストの育成は非常にコミットしており、それぞれの要望や状況に応じてサポートしていることは高く評価している。一方で、子供向けプログラムが少ないという課題があり、分科会としては子連れでの参加を可能にするなどのアイデアを出している。市に対しては、若手の育成は、すぐに結果が出るものではないので、長期的な視点で評価するというのと、市民への周知などに協力していただきたい。稽古場としては、新型コロナウイルスの様子を見ながら利用受付を始めているが、運営について引き続きサポートをお願いしたい。TPAMについては、フリンジにオーガナイザーとして参加して、今回も非常に良い企画を展開し、国内外のプロフェッショナルから高い評価を受けた。今回実施した TPAM や BATIK100 会などのような、稽古場の利用者以外も対象にする展開を今後もできると良い。</p>
日沼委員	<p>○初黄・日ノ出町については、例年、運営・経営面で厳しい評価が出ていたが、収支管理を徹底し、特に黄金町の特徴であるレジデンスでの黒字を確保できている。支援者を獲得するための寄付キャンペーンやネットショップという補助金以外の収入増にも非常に力を入れている。メインのレジデンスは、今後の新しい日常の中でどのように運営していくかが課題となっている。特に海外との交流においては、双方の信頼関係が重要なので、交流が途切れることのないよう、オンラインでの展開をはじめ、柔軟な対応が求められる。拠点づくりとアートの表現をどう育成していくのかという、世界的に見ても非常に特徴的な取組をしている。黄金町の取組をしっかりと伝えるような検証を工夫していただきたいということが話し合われた。</p>
菅野委員	<p>○象の鼻テラスは、市民の無料休憩スペースであり、港湾施設としての制限がある場所。一方で、質の高いアートプロジェクトを展開していかなければならないという、難しい命題を背負っている。こういった制約がある中でも開館から 10 年間、試行錯誤しながら、取組を続けてきたことは高い評価を得ている。昨年度、運営団体の公募があったが、現団体が引き続き運営を行うことに決まったので、これまでの取組が継続され、かつ発展していけることは一つの安心材料となる。分科会では、運営並びに内容に関して質の高さを指摘もされているが、これには運営団体から誠実に対応いただき、常に改善を図っているので、全体的に高い評価である。市民からアイデアを募り実施したフューチャースケープ・プロジェクトでは、なるべく多くのアイデアを実現することを目指して展示したところ、非常に好評だった。こういった体験から、今後、象の鼻テラスのアートプロジェクトを、市民と伴走して実施する方向に切り替えていくことは分科会としても支援していきたい。PORT JOURNEY プロジェクトは、市の港湾姉妹都市とのディ</p>

	<p>野原委員長</p> <p>六川委員</p> <p>野原委員長</p> <p>岡本委員</p>	<p>レクターズミーティングなどが展開されているが、市民への可視化には課題が残る。加えて郊外区にアウトリーチする場合は、これまでと全く違う展開になるので、地域の方たちと丁寧な対話を積み重ねた上でプロジェクトを進める必要があるので、市からもサポートしてほしい。</p> <p>○THE BAYS については、開設から4年目を迎える比較的新しい拠点だが、運営形態が賃貸借契約に基づいているので、評価の基準が他の拠点と違う面があるという意見が出た。全体の運営としては、官民連携で工夫しながら、運営団体をサポートしてほしい。活動も増えてきていて、拠点の存在も認知されてきているが、CREATIVE SPORTS LAB や創造産業集積の拠点としての認知度はいまひとつなので、THE BAYS 全体が創造産業の拠点として、様々な人が集まり、活動していることをうまく発信できると良い。各階でも色々なプロジェクトを実施しているが、一体感がないのも課題である。本拠点は、歴史的建造物としての制約はあるものの、日本大通りの前に位置し、中庭もあるので、活動の見える化や公共空間の利活用の面で、市と協力しながら進めてほしい。近年、経済局やYOXO BOX の活動も活発化しているので、これらとも連携しながら、クリエイティブと産業育成のマッチングを進めてほしい。</p> <p>○ヨコハマ創造都市センターについては、自主事業費を自己資金で賄うというスキームは、経営的には厳しいものでもあったが、来館者や総売上も増加し、毎年の課題に対しても翌年には改善を図っていただき、よくやっていただいた。地元馬車道とコラボレーションしたウマジンも、多くの子供たちに楽しんでいただき、矢沢永吉展も非常に集客力のある企画だった。一方で、さらなる成果を上げるためには、スキーム自体の見直しの検討も必要かと考えている。また全体的な話だが、創造都市施策そのものの見直しの時期が来ているのではとも考えている。</p> <p>○事業評価・事業計画も含めて、意見はあるか。</p> <p>○BankART1929 の事業評価の市の取り組むべき事項の中に、全ての市民を全拠点の事業でターゲットにするのではなく、創造界限全体でバランスが取れていればよい、拠点ごとの特色を踏まえた柔軟な考え方を再検討するべきという項目があるが、ぜひ検討していただきたい。急な坂スタジオでは、若手育成に積極的に取り組んでいて、成果も非常に上がっている。一方で、子ども向けのプログラムに苦戦しているところもあり、拠点によって向き不向きがある。例えば、象の鼻テラスは施設の性質上、多くの市民、子どもが集まりやすいので、市民・子ども向けプログラムを多く実施している実績が既にある。拠点連携とも関係するが、1拠点だけでなく、全体で見るということをもう一度念頭に置いてみても良いと感じる。</p>
--	---	--

事務局	<p>○拠点にもそれぞれ特色があり、今年度は Creative Railway による連携も行う。横浜ならではの創造界限というコンセプトの中で、各拠点がどういう個性を出していくかということは、多くの拠点が公募を迎えるタイミングに合わせて、検討していければと思う。</p>
野原委員長	<p>○拠点連携は以前から話題に出っていたので、具体的に検討いただきながら、各拠点の個性と全体のバランスをうまくマネジメントしていただきたい。</p> <p>○質問、意見がなければ、審議事項（２）については了承でよろしいか。 （了承）</p> <p>審議事項（３）：文化芸術創造発信拠点（BankART1929）の活用施設の変更について</p> <p><文化芸術創造発信拠点（BankART1929）の活用施設の変更について、事務局より説明が行われ、議題について審議が行われた。></p> <p>報告事項：今後の創造都市施策の方向性の検討「これからのクリエイティブシティ・ヨコハマを考える」について</p> <p><今後の創造都市施策の方向性の検討「これからのクリエイティブシティ・ヨコハマを考える」について、事務局より説明が行われ、議題について意見交換が行われた。></p>
野原委員長 恵良氏	<p>○ここまでの説明について、質問や意見はあるか。</p> <p>○１点目は、機能的な人の構成と都市における面的な考え方を意識してほしい。2007年頃の創造都市のプランの中に、臨海部へ向かう軸の議論があった。日本大通りと馬車道の２つ、つまり新市庁舎と旧市庁舎のあり方が見えてきて日本大通りの軸が見えてきた。海岸通り周辺にも動きがこれから出てくるであろうことから、当時描いた軸がどうなるか正念場が近いと思っている。それと同時に、象の鼻テラスと赤レンガ倉庫の間の水路、黄金町に至る水景、など水辺の扱いが重要になってきたときに、アーティスト・クリエイターの人たちの活躍の場ともなりうるので、地図的な発想を意識すべき。２点目は、ACYの活動を皆さんに理解いただき、それが創造都市の中でどういうポジションを取るのが良いのかなども頭に置いてもらえると良い。芸術文化振興財団では、コロナ禍での文化芸術活動の支援の手伝いをしてきたが、支援を受けたい人の半分は音楽関係だった。文化芸術を支えるエンジニア群も多く、結構いるというのをあらためて感じた。今回意外と少なかったのは美術系。ジャズプロムナードや音祭りから生まれたネットワークとも関係もあると思う。こういった人、地図、プラットフォームも今後の検討の材料にしていく必要があると感じた。</p>
菅野委員	<p>○マッピングに関して、横浜市内のクリエイターやアーティストたちの業種や活動について、できれば市で詳細なデータを調べていただける</p>

	事務局	<p>と考える一つの手立てになると思う。すぐということでないが、検討する上で情報はすごく重要。</p> <p>○ACYの活動が平成19年度から始まった中で、具体的な成果もあるが、見えていない部分もあるかと思うので、芸術文化振興財団とも協力しながら、成果を分析していければと考えている。コロナ禍での相談窓口など様々なアーティスト・クリエイターの支援メニューを行うなかで、気づかなかったところが出てきているので、今後の施策の検討材料にできるかと思う。地図的な発想については、都市整備局などとも連携し、どういったことができるのか考えていければと思う。関内・関外地区のクリエイターの状況についても、業種や人数などの分布をこれから調査していく。</p>
	重松委員	<p>○横浜市はスピードをもって補正予算を成立させ、新型コロナウイルスに対する文化芸術活動の支援の取組は素晴らしいと思うので、もっとPRをしてよいと思う。例えば、東京都では10万円支援したことが日経新聞や朝日新聞に掲載されたが、横浜市は一般的なニュースになりにくかったと感じた。文化芸術創造都市をPRするチャンスだと思うので、市としてのPR戦略をもっとしっかりやって良い。BankART1929の施設変更が10月にあるので、このタイミングに合わせて、市としてどういう情報を出していくか、戦略的にやる必要があると思う。</p>
	事務局	<p>○今回の支援については、全国紙でもいくつか取り上げられている。例えば、相談窓口は専門家を雇ってチームをつくっており、全国でも例がないもので、これに倣う自治体も出てきた。芸術文化振興財団の持つ広報ツールやネットワーク、知恵を借りながら発信をしていくということが市民の理解につながると思うので、努めていきたい。</p>
	六川委員	<p>○クリエイターのリスト化、情報発信は大切だと思う。これは、民間にもクリエイターの情報が入って、結果、クリエイターのビジネスチャンスが生まれる。現状、ビジネスチャンスが少ないのではと思っており、残念ながら、横浜市からクリエイターが離れていくという現象も出てきているので、こういった取組は必要だと思っている。</p>
	事務局	<p>○経済局との連携が一つの方法としてある。クリエイターのアイデアと市内の企業の技術力等をつなげるような場づくりを経済局などと連携してやっていく。クリエイターの活動の場は、以前と比べて、みなとみらい地区にも広がりを見せているので、ネットワークを構築していければと思う。</p>
	野原委員長 事務局	<p>○方向性（案）については、どのようなスケジュールで出てくるのか。</p> <p>○全体のスケジュールで言うと、次の中期計画は令和3年秋ごろが策定時期となる見込みのため、そこまでにある程度のアウトプットを想定している。アウトプットの内容は、横浜市の強みや課題、それらを踏まえた少し先の将来像や次期中期計画の最終年となる2025年の目指すべき姿、方向性を想定している。今年度は、これまでの現状分析な</p>

	<p>野原委員長</p> <p>事務局</p> <p>野原委員長</p> <p>野原委員長</p> <p>事務局</p>	<p>どを行った上で、大まかな形で 2025 年の創造都市・横浜の目標像、可能であればそれに向けての取組の柱立てが 3 月頃までにできればと考えている。年明けの委員会では、骨格となる方向性を出していければと思っている。</p> <p>○10 月頃には何らかの方向性の案が出るというものなのか。方向性の案にも意見が出ると思うので、早めに方向性が見えるほうが議論はしやすいと思う。</p> <p>○8 月、9 月で委員や関係者へのヒアリングを行いつつ、現在行っている調査のアウトラインが大体 10 月頃に出ると思うので、10 月は現状に関するデータやヒアリング結果をお示しし、これに対して 10 月と 11 月の委員会で意見を頂ければと思っている。実りある意見交換ができるよう、準備していきたいと思う。</p> <p>○振り返りをする上で、きちんと評価できる指標についても整理していただきたい。また創造都市の取組の中には、数字には出てこないが、相当なチャレンジが行われてきたことの成果もあると思うので、これらも踏まえて評価していただきたい。</p> <p>○質問、意見がなければ、報告事項については以上とする。議事が全て終了したので、これ以降の進行を事務局にお返す。</p> <p>3 その他</p> <p><事務局から議事録の確認依頼や今後のスケジュールなどについて、事務連絡が行われた。></p> <p>○これをもって、第 1 回横浜市創造限界形成推進委員会を終了する。委員の皆様、長時間ありがとうございました。</p>
資料	<p>①次第</p> <p>②委員名簿</p> <p>③前回議事録（令和 2 年 2 月 20 日開催分）</p> <p>④ [資料 1] 令和 2 年度事業計画シート</p> <p>⑤ [資料 2] 令和元年度事業評価シート</p> <p>⑥ [資料 3] 文化芸術創造発信拠点（BanKART1929）の活用施設の変更について</p> <p>⑦ [資料 4] 「これからのクリエイティブシティ・ヨコハマを考える」について</p>	
特記事項		

これからのクリエイティブシティ・ヨコハマ を考える (第2回)

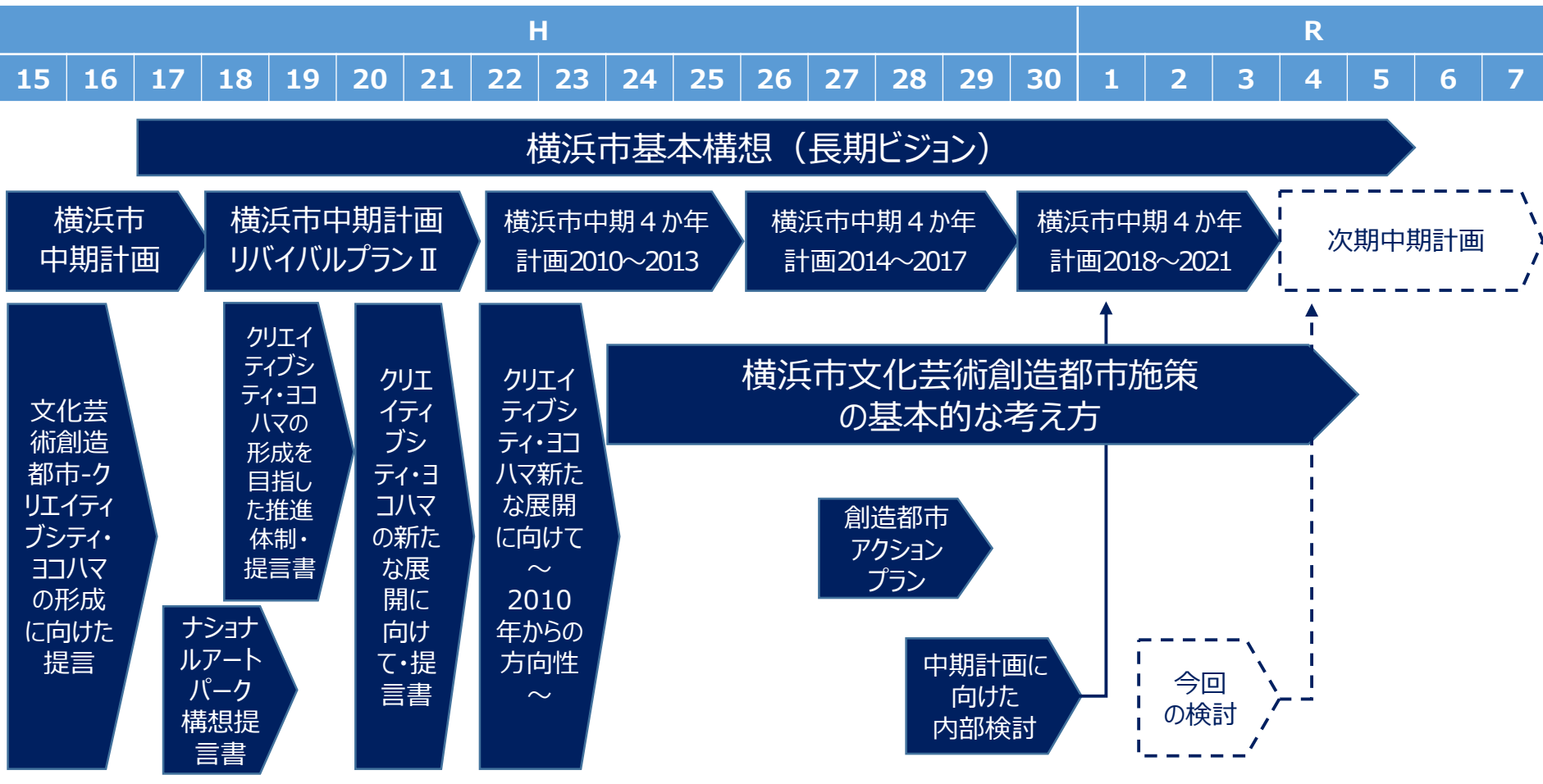
令和2年10月21日
横浜市文化観光局創造都市推進課

これからのクリエイティブシティ・ヨコハマを考える

1. スケジュールと進捗

2. 委員ヒアリング報告

スケジュールと進捗



あうたびに、あたらしい

Find Your YOKOHAMA

City of YOKOHAMA



スケジュールと進捗

【基礎調査】

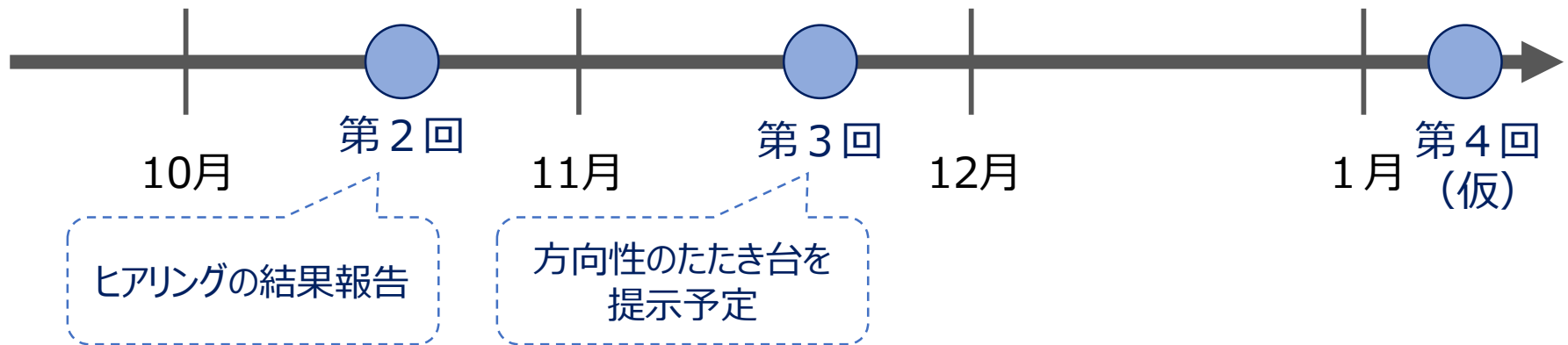
関内・関外地区をはじめとする

- ・創造的産業、従事者の集積状況
- ・アーティスト、クリエイターの経済規模

【ヒアリング】

・委員、有識者

【方向性（案）の検討】



あうたびに、あたらしい

Find Your YOKOHAMA

City of YOKOHAMA



これからのクリエイティブシティ・ヨコハマを考える

1. スケジュールと進捗

2. 委員ヒアリング報告

委員ヒアリングの概要

実施期間

8月27日（木）～9月24日（木）

主なヒアリング内容

- 横浜市の創造都市施策に関する所感・評価（強み・弱み）
- 今後のあり方（横浜市の将来像の展望、創造界隈が目指す取組の方向性等）
- これまで施策として取り組んでいくな新たな視点、新型コロナウイルス感染症における文化芸術活動

主な意見(所感・評価)

これまでの所感

- 先駆的に創造都市の活動を進めてきた点は評価
- 15年前と比較し歴史的建造物の活用、アーティスト・クリエイターの集積が進んだ。
- 創造都市に関する市民からの認知度が低い。
- 「創造都市横浜」という言葉が弱まっている。以前は創造都市のトップランナーだったが、他に追い付かれた感が否めない。

特色・強み

- 拠点を中心とした創造界隈の形成、複数の拠点による個性ある活動の展開
- 当初から現在でも通用する「クリエイティブ」というコンセプト
- 街中にある文化施設、古い建築物、港湾などの都市としての魅力
- 海外アーティストとの交流等による海外の文化芸術活動のパートナーの存在
- ACYによるマッチングやフェローシップの助成

課題・弱み

- 「クリエイティブシティ」の範囲の幅広さゆえの焦点の絞りにくさ。
- クリエイターのビジネスマッチングなどのビジネスの視点
- 地域・住民などの市民を巻き込んだ事業展開、還元
- 市民に対する発信力、広報
- 各拠点に期待すること・役割の整理、財政的に自立した運営

主な意見(今後のあり方)

横浜市の将来像

【考え方】

- 文化芸術振興だけではないというコンセプトは横浜市のイメージとあっている。
- 主体の変化・成長・縮退に応じて変わっていく必要があり、5～10年単位で見直しながら進めていくと良い。
- 持ち続けるべき都市のブランディングと市民に理解される成果は共有する。その上で、クリエイティブの余地を残すことが大事。
- 予算に合わせた事業の縮減も踏まえ考えていくことはあり得る。

【対象エリア】

- 今後の事業展開にみなとみらい21地区を外すことはできない。
- 都心臨海部で培った経験・手法を郊外での展開する方法もある。

【取組】

- 拠点、まちづくり、創造的産業などの施策の柱（軸）となる事業を設定するべき。
- 創造的産業を促進していくことは今の都市経営には必要な発想である。
- 情報をまとめて、人を集め、経済に繋げる、といった循環をさせること。
- 文化芸術創造都市施策を観光や別分野とどう関係性を持たせるか。
- 力のあるアーティストの育成には時間をかける必要がある。
- アートやデザインで新しい発想や仕組みづくりを後押しし、循環型社会を形成するために創造性を生かす。
- 外部から見ると展開できる種はあるため、創造都市をやる領域を広げても良い。

主な意見(今後のあり方)

創造界限拠点の 方向性、役割

【事業スキーム】

- 協定期間が短く、すぐに次の運営団体の公募期間となる。団体がより良い事業展開を行えるよう、協定期間を10年程度にするなどの検討が必要。
- 拠点運営は協定に基づく従来型の事業スキームに加え、賃貸借契約や民間同士の契約など様々な手法があり、市の関わり方を含めて一度整理が必要。よりよい運営スキームを研究してほしい。
- 新しい人をインキュベートするのも創造都市の使命だが、現運営団体の経験値が上がってきており、同じ土俵で競争するのは難しいのでは。
- テーマの広い事業を進めるには、個人・組織問わず総合プロデューサーが必要。全体コントロール、全体的な情報発信などがシステムとしてできていないことが弱み。

【取組】

- アーティストに対する支援する教育プログラムができていることは大事
- ベンチャーのような小規模の新たな創造界限拠点を作り、次の運営団体の候補の育成を行う。
- 各拠点での次世代の人材の育成が求められる。
- 拠点によってポテンシャルが違うので、役割もそれぞれ違う。
- 拠点のミッションは見直してくべき。役割を終えた所は次に引き継いだ上で閉じる、自立した所は自立型へ切り替える、定着したらもっと任せるなどを考えてもよい。ただし、柱となる部分をなくしてはダメ。

主な意見(今後のあり方)

今後取り組むべき 事項

- ターゲットを絞った戦略的な広報の展開
- 集積した人材の見える化、市のクリエイティブマッピングの整理
- アーティストによる街の共通の課題解決と地域・社会への参画
- 企業市民の巻き込みと、成功事例を呼び水にした企業と市の取組との連携
- 規制緩和などを使いながら民間の投資を呼び込む。
- 国際的に共有できる「SDGs」の視点

新型コロナウイルス 感染症における文 化芸術活動

- 守らなければいけない規則をどうクリエイティブに順守しながら、踏み出せるか。アーティストに考えさせる機会を拠点などが与えられれば良い。
- 閉じられた空間で行う舞台芸術への打撃が大きく、これからはオンラインとリアルの両方を意識しなければいけない。

Creative Railway

－みなとみらい線でつながる駅アート

実施報告

令和2年10月21日

横浜市文化観光局創造都市推進課

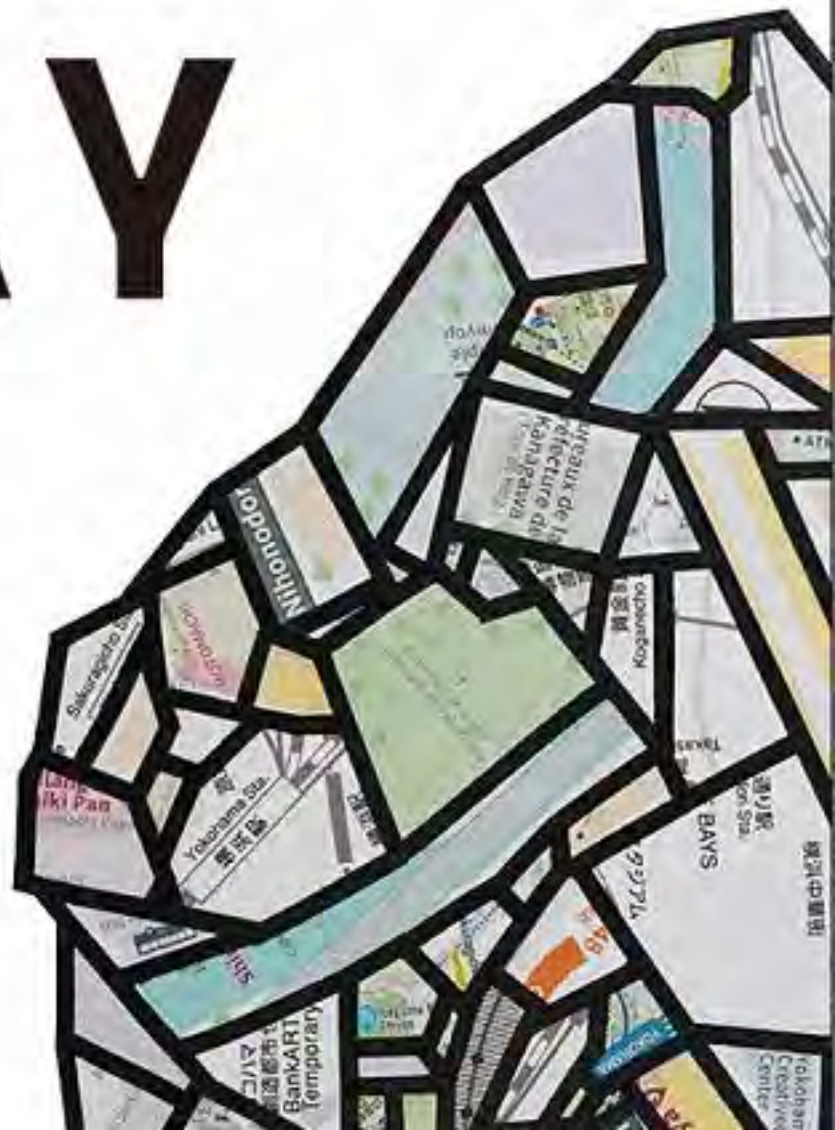
CREATIVE RAILWAY

駅 ART

みなとみらい線で
つながる駅アート

Art in the Minatomirai stations

2020 | 9.26 SAT → 10.11 SUN



■概要

ヨコハマトリエンナーレ2020連携プログラムとして、
「みなとみらい線」の各駅を会場に、創造界限拠点が連携して
実施したアートプログラムです。

- 日時：令和2年9月26日（土）～10月11日（日）
- 会場：みなとみらい線 新高島駅～元町・中華街駅の各駅構内など
- 主催：横浜高速鉄道（株）、創造界限拠点、横浜市



馬車道
ART
01

新高島駅

BankART Station

みなと
ART
02

みなと
みらい駅

みなとみらい線

横浜美術館

プロット48

馬車道
ART
03

馬車道駅

日本郵船
歴史博物館

デジタルスタンプラリー
景品交換場所

象の鼻テラス

日本大通り
ART
04

日本大通り駅

THE BAYS

BankART Home

ヨコハマ創造都市センター
BankART Temporary

元町・中華街
ART
05

元町・中華街駅

R16 Studio

高島町駅

横浜市営地下鉄

桜木町駅

桜木町駅

関内駅

関内駅

石川町駅

伊勢佐木長者町駅

戸部駅

京急線

日ノ出町駅

野毛山動物園 ● 急な坂スタジオ

初黄・日ノ出町地区(黄金町エリア)

阪東橋駅

馬車道 Creative Railway
駅アート展示会場

● 創造界隈拠点

● ヨコハマトリエンナーレ
2020 会場



■ 主な企画と実績

- 各駅構内及び周辺での作品展示・パフォーマンス
- 音声作品
- ラッピング電車の運行

< 周遊策 >

- オリジナル一日乗車券 → 713枚販売
- デジタルスタンプラリー → 1,025名参加

< みなとみらい線乗降者数の推移 >

122,971人/日 : 事業開始前週
130,243人/日 : **事業期間中**
(178,865人/日 : 前年同時期)



約7,300人/日 増!

駅 ART
01

新高島駅

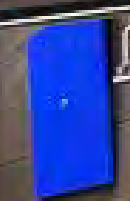
「展覧会の絵」

BankART1929



1 光明·中華街方面
for Motomachi Chūka-gai

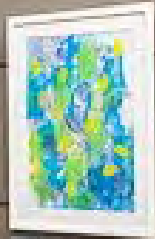
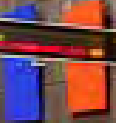
光明·中華街方面 11:30
光明·中華街方面 11:30





1 第一層樓層
第一層樓層

第一層樓層



駅 ART
02

！みなとみらい駅

「みらいみなと」

急な坂スタジオ



B

A

Informational sign on a stand in the foreground.

Informational sign on a stand in the background.





馬車道 ART 03

| 馬車道駅 (横浜市役所)

「えきなか動物園」

+

「BankART Life VI - 都市への挿入 川俣 正」

BankART1929



CREATIVE
RAILWAY



2020.9.11
11:00 - 19:00
BankART
BankART
銀行道駅



駅 ART
04

日本大通り駅 (県庁・大さん橋)

「象の鼻テラスmini」

象の鼻テラス



気が
た
ほ
か
が
美味
い





駅 ART
05

元町・中華街駅 (山下公園)

「駅からまちを訪ねる」

黄金町エリアマネジメントセンター









